

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】 ～ 日本一の高校をめざして ～

- 大阪を代表する公立高校として、教育のあるべき姿を追求し、府民から信頼され、誇りとされる学校。
- 日本や国際社会で活躍する高い「志」を持ったリーダーを育成する学校。
- 全てにおいて「チーム天王寺」として組織的に一丸となって取り組む学校。

【生徒に育みたい力】

- 自由闊達・質実剛健・文武両道の校風を理解し、深い教養を身につけるだけでなく、行事・部活動・探究活動等に積極的に取り組む意欲。(意欲)
- 目標に向かって全力を尽くすために必要な思考力・判断力・表現力と、それらに基づく行動力。(行動力)
- 世界市民として多様性を理解し協働性を備え主体的に社会貢献しようとする高い志。(志)
- 様々な個性の存在を理解するとともに尊重し合う優しさ。(優しさ)
- これからの社会を創り出していく本校生が、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓ひらいていくために求められる資質・能力(「知識・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を含む学力)

2 中期的目標

1 学力の育成

- (1) 天高スタンダードに基づいた高い学力、および次期学習指導要領がめざす「知識・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を含んだ「確かな学力」の定着に取り組むとともに、3年後の高大接続改革を見ずえたカリキュラム・マネジメントを行う。
- ア 授業アンケートにおいてアンケート項目の全体平均3.45以上を維持する(H29年度は4点満点で3.51)。
- イ 文武両道をさらに追求する(部加入率95%以上を維持)。学校教育自己診断においても部活動との両立ができている生徒の割合を向上させ、(平成29年度71%)70%以上を維持する。
- ウ 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業改善に向けた取り組みをさらに進め、より洗練された指導法を開発し共有する。
- エ 高大接続改革において導入される大学入学共通テストについては、生徒・保護者に適切に情報を提供して必要十分な準備を行う。また、個別入学者選抜における改革の動向及び「主体性・多様性・協働性」に対する評価のあり方に関する検討状況について、情報収集と研究を行い、進路指導体制に反映させる。
- オ 次期学習指導要領が求める観点別評価について、これまで行ってきた取り組みを発展充実させ、パフォーマンス評価として、より洗練されたルーブリックの開発と共有をめざす。また、生徒の活動に対するポートフォリオ評価のあり方について研究を行う。
- カ 4技能を備えた英語力を身につけさせるため、指導方法・カリキュラムの研究を継続するとともに、国際教育の機会を通じて、学習の動機付けを行う。

(2) 学習指導の充実に取り組む

- ア 天高育成プログラムを基に、各教科で3年間を見通した学力育成プログラムを展開する。また、各教科の自主教材のさらなる充実を図る。
- イ 研究授業、公開授業を充実(教科の枠を超えた授業研究の実施)し、互いに見学する回数を1人平均5回以上にする(平成29年度は5.2回)
- ウ 4技能を備えた英語力を生徒に身につけさせることのできる指導法を確立し、全英語科教員が取り組む体制を整備する。
- エ 「パフォーマンス評価」及びその達成度の基準を示す「ルーブリック」や「ポートフォリオ評価」など、さらに洗練された評価法を開発し共有する。

(3) 探究活動の充実、自学自習の習慣づけ

- ア 文理学科全員が学校設定科目「創知」において行う課題研究について、2020年度までに効果的な指導・運営・評価方法を研究し、全教科教員で支援する体制を確立する。研究の成果をグローバルリーダーズハイスクール10校で共有し、新学習指導要領の新科目「理数探究」のモデルを大阪から全国に発信する。
- イ 桃陰セミナーの活用を一層推奨する。 → 土曜日は学校で自学自習の習慣づけ
- ウ 部学習日を充実させる。 → 同じクラブ内での相互指導と学習

2 グローバル社会に貢献できる人材の育成

(1) グローバルリーダーの育成

- ア 英語圏との交流、アジア各国各地域との交流、国内での国際活動を通して国際教育を充実させ、全ての生徒に国際感覚を身につけさせる。
- イ アジア各国との交流を進展させ、①アジア理解とアジア研究、②アジアの若者との英語による交流、③文系の国際研究活動の機会として充実させる。
- ウ SSH拠点校として、グローバルリーダーズハイスクール10校対象の海外研修を企画・運営し、その成果を広く共有する。
- エ 科学に秀でた人材の育成をめざし、SSHの重点枠を活用して大阪サイエンスデイや近畿サイエンスデイ等を運営する。

(2) 生徒理解の促進と安心な学校づくりのための体制の確立をめざす。

- ア 教育相談委員会の充実をはかり、担任、学年団、カウンセラーと連携し、様々な原因でつまづきを感じる生徒を支援する。
- イ 平成19年に学校教育法が改正され、「高校においても障がいのある生徒に対し、障がいによる学習上または生活上の困難を克服するための教育を行う」と規定されたことを踏まえ、天王寺高校としての生徒への支援体制を確立し、発達障がいに関する共通理解を深め、インクルーシブ教育推進を行う。

(3) 京都大学・大阪大学・大阪教育大学・大阪工業大学との連携協定に基づきGLHSの事務局校として各大学との連携を進める。

3 教員の資質の向上

- ア 新規採用教員に対して実施している「桃陰塾」を継続発展させて教科指導力、生徒指導力の育成をはかる。
- イ 教員の働き方を見つめ直すとともに、経験の少ない教員の教科指導力と生徒指導力を育成する。中堅教員に学校運営の視点を身につけさせる。
- ウ 外部教育機関の経験豊かな教員や広報担当者を招聘し、授業展開や新たな高大接続のあり方に主眼を置いた研修会を開催する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年10月実施分]	学校運営協議会からの意見
保護者による回答 有効回答数 867/1080 (1年 286 ・2年 278 ・3年 303 回収率 80.4%) 「非常にそう思う」と「そう思う」という肯定的意見が 85% を超える項目が全 24 項目中 15 項目、昨年度から2項目下回り、各項目の肯定意見も全体的に昨年度を下回る結果となっているが、その差は1～5%と小さく、大きな変化は見られない。「学習の内容や進度等を、懇談や通信などによって知ることができる」が 5% 下回ってはいるが、学年通信の発行は各学年積極的に行っており、懇談も例年と同様に実施している。「部活動が活発」 93% 、「他の学校にない特色ある教育活動」 94% と、本校の教育	第1回(6/30) ・教職員の努力に頭が下がる思い。体を壊さず目標に向かっていってほしい。 ・研究倫理などは人権にも関わる問題。人権教育の取り組みも重要。「志をもったリーダー」になる生徒たちであれば、人権や弱者の立場を考えられる人材育成も非常に大切。 ・学校経営計画の中で良いなと思ったのが「やさしさ」という言葉。相手はどう考えるのかを想像することが大事であり、この「やさしさ」が含まれているのは非常に良いこと。 ・進学実績を誇るだけの学校でなくても、その生徒にとっていい学校になってほしい。そういうところに目が届く進路指導であってくれたら大変うれしい。 ・天王寺高校の教育の在り方をどのように外に出していくか。「後輩のために役に立ちたい」が 8割 というのは、すごいこと。そのような学校のイメージをどんどん発信してほしい。

府立天王寺高等学校

<p>方針に対する信頼は変わらない。「子どもの心身の健康について気軽に先生に相談できる。」80%、「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」83%、本校の教育相談体制への信頼も変わらず頂いている。回収率は80%を超えており、本校の教育に対する関心の高さが伺える。</p> <p>生徒による回答 有効回答数 1050/1078 (1年 358・2年 349・3年 343 回収率 97%) 「学校での友人関係はうまくいっている」94%、「部活動に参加している」99%、その他肯定的な回答が85%を超える項目が全37項目中22項目あり昨年度同様、大多数の生徒が本校での学校生活に満足しているものと思われる。昨年48%と落ち込んだ「清掃活動が行き届いている」が+7で55%、「課題研究は有意義である」が+2で81%と回復した。保健部を中心とした取り組みやさらにブラッシュアップした2年全員の課題研究の運営が功を奏した。PDCAサイクルがうまく回っている証左と言える。</p> <p>教員による回答 有効回答数 66/68 (回収率 97%) 昨年度から10ポイントを超えて上昇した項目が、「学校運営に教職員の意見が反映されている」、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われている」、「清掃活動が行き届いて、清潔である」、「施設・設備について...事故の防止に配慮されている」となっており、学校運営に対する教職員の当事者意識の高まりや、昨年度課題となった項目に対する取り組みが成果に結びついたことを示している。また、「災害時等の役割分担・体制が明確化されている」が6ポイント下がったのは、今年度の度重なる非常変災を通じた学校体制に対する危機感の表れであり、来年度に向けて非常変災対応の整備と徹底を期したい。</p>	<p>第2回 (11/24) ・授業アンケートの評価は高く、先生方が伝えたいことは8割方伝わっているが、忙しい3年間を過ごす中で、生徒たちがホッと一息つくときは果たしてあるのか。生徒を孤立させない体制を作ってほしい。 ・働き方改革法について、制度によって教員と生徒との時間が減っていつてしまうことを危惧する。 ・天王寺の授業では十分であるという、生徒が塾ありきの中学時代とは切り替えができるようにしてほしい。 ・創知の取り組みは、とても注目されているので、広報面でももう少し進めてみてはどうか。</p> <p>第3回 (1/26 実施) ・生徒に育みたい力に優しさがあるように、生徒が社会の中でリーダーになっていくとき、弱者に対する優しさ、人権感覚を持ってほしい。そこを大事にしていきたい。 ・多様で積極的な活動に感心している。SSHの取り組みも素晴らしい。このような活動をきちんとやっていけば、めざす学校像とか育みたい力が身についていくのだろう感じる。 ・チーム天王寺のチームという考えがいいと思う。グループではなくチーム、つまり、それぞれができることをやる。これはクラスでも当てはまる。各場面で力を発揮できる生徒がいるはず。チームという感覚が育てば社会に出てもそれが活かせるのではないか。 ・働き方改革は理解はできるが、今の質を落とさないようにするためには、予算と人を確保しなければならない。加配なしに現状を維持しながら働き方改革なんてありえない。どうやって教員の生徒に対する時間を確保していくか。天王寺高校が代表としていろいろな問題点を提起し、大阪府全体の学校の状況を良くしていかないといけないと思う。 ・めざす学校像に優しさという言葉を残していただいたのはうれしいこと。生徒も教員もかなり負担があると思うが、精神的にも肉体的にも気を付けていただきたい。 ・学校がうまく回るためには、学年、分掌、教科の3つのまとまりが必要だが、天王寺はそのまとまりが素晴らしい。まさにチーム天王寺。天王寺の様々な取り組みが大阪府下の高校全体に広がっていけば良いなと思っている。 ・平成31年度学校経営計画「学校運営に関する基本的な方針」について承認された。</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の育成	<p>(1) 天高スタンダードの実施と検証を行い各教科ごとの到達度を高める。中教審答申に示された「確かな学力」を生徒に身につけさせる。また、新しい入試制度を研究する。</p> <p>(2) 学習指導の充実に取り組む。</p>	<p>(1) ア・教科運営委員会で天高スタンダードを点検、整備していく。授業アンケートの結果を高いレベルで維持する。 イ・文武両道をさらに追求する。ノークラブデーを周知徹底し、学校教育自己診断においても部活動との両立ができてきている生徒の割合を向上させる。 ウ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、グループ活動、ペアワーク、ディベート、プレゼンテーションなど、アクティブラーニング型の指導方法を国語、社会、数学、理科、英語の各教科で発展させるとともに、質の高い深い学びのある授業実践を行う。 エ・新しい入試制度に関係する研修会や説明会に参加し、校内での情報共有を行い、可能な範囲で日々の授業等に反映させる。 オ・「パフォーマンス評価」とその達成度の基準を示す「ルーブリック」を改善・研究し、課題研究の評価方法を確立する。 カ. 4技能を備えた英語力を身につけさせる。 キ. 科学オリンピック対策講座を開催する。科学オリンピックへの参加者 150名以上を維持する。</p> <p>(2) ア・研究授業、公開授業の充実 イ・技能を備えた英語力を生徒に身につけさせる。 ウ・「ポートフォリオ評価」など、生徒の活動の成果を記録する評価方法の研究を継続する。</p>	<p>(1) ア・天高スタンダードの改訂を継続する。授業アンケートの全体平均3.45を維持する。(H29年度3.51) イ・部加入率95%以上を維持(H29年度100%)。学校教育自己診断において部活動との両立ができてきている生徒70%を維持する(H29年度71%) ウ・国社数理英の各教科で少なくとも1回以上、アクティブラーニング型の授業の発展形の展開を試みる。学校教育自己診断において、授業満足度90%(H29年度88%)進路希望達成に必要な学力をつけてくれる75%以上をめざす。(H29年度70%) エ. 新しい入試制度に関係する研修会や説明会での情報を職員会議で共有する。(1回以上) オ. 「ルーブリック評価」を共有し活用する。(「創知」課題研究で活用) カ. スピーキングテストと4技能対応授業の継続 キ. 科学オリンピック対策講座開催。科学オリンピック参加者150名以上を維持し、2名以上の受賞者を出す。 H28 232名 内、受賞7 H29 263名 内、受賞12</p> <p>(2) ア・授業見学(5回以上) イ・4技能指導法の確立 ウ・ポートフォリオ評価の研究成果を職員会議で共有する。(1回以上)。</p>	<p>(1) ア 全体平均 1回目3.40 2回目3.53 1回目・2回目平均3.47 (○) イ 部加入率99%(学校教育自己診断) 部活動との両立ができてきている74%(○) ウ 各教科でのアクティブラーニング導入100% 各教員のアクティブラーニング導入98%(○) (学校教育自己診断) 授業満足度87% 進路希望達成に必要な学力をつけてくれる72%(△) エ 職員会議において、進路指導部等から高大接続改革の進捗状況や大学の対応について情報提供と情報共有を行った。(○) オ 各教科でのルーブリック活用100% 各教員のルーブリック活用86% 「創知」課題研究の評価で活用した。(○) カ 1・2年生での英語による授業実践の継続 スピーキングテスト 1年5回、2年2回実施(◎) キ 科学オリンピック参加325名。受賞者9名。(◎) H26 149名 内、受賞5 H27 121名 内、受賞5 H28 232名 内、受賞7 H29 263名 内、受賞12 H30 397名 内、受賞9</p> <p>(2) ア 授業見学数 平均7.0回(○) イ 英語による授業実践が進んでおり、他校からの見学もあった。(◎) ウ SSH近畿圏8校によるルーブリック研究会にSSH主导者が参加し、研究協議を行い、内容を職員会議で共有した。(○)</p>

